

鹿児島の動物③ **ブチサンショウウオとオオダイガハラサンショウウオ**

脊椎動物担当 中間 弘

鹿児島県に棲息するサンショウウオ4種類の中から、今回はブチサンショウウオとオオダイガハラサンショウウオを紹介します。

ブチサンショウウオは体長が80～150mmになる西日本の代表的な流水性サンショウウオで、その名の通り青褐色の地に灰白色のブチ模様があります。源流部に近く水量もさほど多くない沢沿いの森林に見られ、成体は石の下や近くの斜面から見つかります。鹿児島県内では、紫尾山～大口と高隈山に棲息します。以前には大隅半島全域に分布するとされていましたが、研究の結果、鹿屋から南に分布するのは別種のオオダイガハラサンショウウオであることが分かりました。

オオダイガハラサンショウウオは、体長が150～200mmになる日本産小型サンショウウオの中では最も大型の種で、体色は全体が黒っぽい青で、斑紋や斑点はありません。紀伊半島南部、四国、九州に分布し、標高300～1700m程度の山地の、広葉樹林に覆われた溪流の源流部付近に棲息します。この分布域は、

中央構造線に沿うかたちで奈良・和歌山県から、四国山地を通り、九州は大分県・宮崎県・熊本県に接する祖母山系まで直線的に連続している点で興味深いです。しかし、鹿児島県での分布域はこの連続した分布域からは隔絶したかたちで、肝属川以南の肝属山地（国見岳～稲尾岳）に分布しています。



昔はサンショウウオを滋養強壯の薬として薫製にして食べることがあったそうです。それだけ数も多く棲息していたのでしょう。人との共存の中で姿を消しつつあるサンショウウオ。なんとかその姿をいつまでも見られる方策はないのでしょうか。

鹿児島の植物③ **ナキリスゲ** (カヤツリグサ科)

植物担当 大屋 哲

カヤツリグサ科にスゲ属というグループがあります。日本産で約200～250種あり、高等植物の中ではもっとも種数が多い属だと言われています。葉の付け根の色や、めしべやおしべの形など、細かいところまで観察しないと同定ができないという、ちょっとやっかいな植物です。スゲの大きな特徴の一つは、めしべや果実が入っている果胞かほうとよばれる壺つぼのようなものをもっている点です。



果胞

今回紹介するナキリスゲは、これからの時期、林道や林床にふつうに見られるスゲです。

ほとんどのスゲが春に花を咲かせ結実するのに対し、このスゲは秋に花を咲かせます。大きな株をつくり、果胞に毛がたくさんつきます。名前の由来は、「菜切りスゲ」。菜を切っていたかは定かではありませんが、葉の縁を触るととてもざらついて、菜っ葉もよく切れそう??です。

あまり目立たないスゲの仲間ですが、近くの山を散策するついでに探してみたいかたがででしょうか。

